

西田毅教授

略年譜および主要著作目録

略年譜

一九三六年四月二三日 大阪府に生まれる

学歴

- 一九五五年三月 奈良県立畝傍高等学校卒業
- 一九五五年四月 同志社大学法学部政治学科入学
- 一九五九年三月 同大学卒業
- 一九五九年四月 同志社大学大学院法学研究科政治学専攻入学
- 一九六二年三月 同大学院修了

職歴・役職歴

- 一九六二年九月 同志社大学法学部助手に就任
- 一九六五年四月 同志社大学法学部専任講師
- 一九六八年四月 同志社大学法学部助教
- 一九七四年四月 同志社大学法学部教授
- 一九七七年四月 同志社大学大学院法学研究科博士前期課程教授

一九八〇年四月 同志社大学大学院法学研究科博士後期課程教授

一九七一年四月 学生主任 (七五年三月まで)

一九八〇年四月 教務主任 (八一年八月まで)

一九八一年九月 同志社大学人文科学研究所長

一九八四年四月 大学評議員 (八六年三月まで)

一九八八年四月 同志社大学法学部長

同年 大学評議員 (八九年三月まで)

同年 大学院委員 (八九年三月まで)

二〇〇七年四月 同志社大学名誉教授

他に天理大学〔「政治学」〕、大阪市立大学法学部〔「東洋政治思想史」〕、奈良女子大学文学部〔「政治学」〕、関西学院大学法学部〔「日本政治思想史」〕、龍谷大学法学部〔「日本政治思想史」〕、京都文教大学〔「現代の政治学」〕等の各大学に、非常勤講師としてそれぞれ出講

在外研究・外国大学客員教授歴

一九七五年九月 オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ客員研究員 (Senior Associate Member) (七七年八月まで)

一九九一年九月 同上、客員研究員 (九二年三月まで)

一九九六年十月 武漢大学政治与行政学院客座教授 (現在)

一九九七年八月 北京日本学研究中心客員教授 (国際交流基金派遣教授) (同年、一二月まで)

二〇〇三年八月 アーティスト大学客員教授 (同志社―アーティスト交換教授) (同年、一二月まで)

二〇〇六年十一月 中国西安交通大学、西北大学客員教授

学会役職歴

一九八八年四月 日本政治学会理事・文献委員長（九二年三月まで）

一九九三年四月 日本社会文学会理事（現在）

一九九八年 政治思想学会監事（二〇〇二年まで）

二〇〇五年十一月 日本ビュリタニズム学会理事（現在）

その他、福澤諭吉協会会員、慶応義塾福澤研究センター客員所員等

社会的活動歴

一九七五年六月 京都府久御山町都市計画審議会委員（現在）

一九九三年八月 同上、会長（現在）

二〇〇五年六月 京都府久御山町総合計画審議会会長（〇六年一月まで）

一九八九年一月 滋賀県近江八幡市社会教育委員長（現在）

一九九〇年四月 近江八幡市青少年問題協議会委員（現在）

一九八九年一月 滋賀県社会教育委員連絡協議会理事（現在）

二〇〇二年四月 同上、副会長（〇四年三月まで）

受賞歴

- 一九八六年七月 朝日学術奨励金（共同研究「長谷川如是閑と『政教社』の人びと―日本におけるリベラリズムの「潮流」―」代表田中浩教授）受賞
- 二〇〇〇年六月 京都府自治功労者（京都府知事表彰）
- 二〇〇四年一月 近江八幡市社会教育功労者（滋賀県近江八幡市教育委員会表彰）
- 二〇〇五年二月 久御山町自治功労者（京都府久御山町長表彰）

主要著作目録業績

著書

I 史料編集解題

- 『竹越三又集』（民友社思想文学叢書第四卷） 一九八五年 三一書房
- 竹越与三郎『人民読本』（近代日本研究資料（二）） 一九八八年 慶応義塾福澤研究センター
- 『高田三郎全集』第三卷（開国始末） 一九八九年 龍溪書舎
- なお第二卷（社会教育論集）解題は共同執筆

- 竹越与三郎『新日本史』上・下二卷（岩波文庫 校注・解説） 二〇〇五年 岩波書店
- II 編著書

- 『近代日本政治思想史』 一九九八年 ナカニシヤ出版
- 『近代日本のアポリアー―近代化と自我・ナシヨナリズムの諸相』 二〇〇一年 晃洋書房

『民友社とその時代―思想・文学・ジャーナリズム集団の軌跡』（共編著）

二〇〇三年 ミネルヴァ書房

III 共 著

『近代天皇制の形成とキリスト教』（富坂キリスト教センター編）一九九六年 新教出版社

『同志社山脈―一三人のプロフィール』（同志社山脈編集委員会編）

二〇〇三年 晃洋書房

IV 翻 訳

『欧米から見た岩倉使節団』（イアン・ニッシュ編（共訳））二〇〇二年 ミネルヴァ書房

論 説

『植木枝盛の政治思想について』（修士論文）一九六二年

『大山郁夫の平和運動とその思想』（憲法研究所編『平和思想史』）

一九六四年 法律文化社

『大隅教授における「理論と実践」の問題―その思考方法との関連において』

一九六五年 『同志社法学』九一号

『選挙にあらわれた政治意識―京都府第一区の場合―』（共同執筆）（『年報政治学 政治意識の理論と調査』）

一九六五年 岩波書店

『福沢における「抵抗」の論理の展開（二）―近代日本の政治倫理―』

一九六七年 『同志社法学』九九号

「新島襄の思想原理―『同志社精神』の原理―」

一九六七年 『同志社時報』二二六号

「福沢における『抵抗』の論理の展開―(二)―近代日本の政治倫理―」

一九六九年 『同志社法学』一〇九号

「木下尚江論―平和思想と『宗教的隠遁』をめぐって―」

一九七一年 『同志社法学』一二〇号

「現代の平和思想」(田畑忍教授古稀記念論集刊行委員会編『現代における平和と人権』)

一九七二年 日本評論社

「十九世紀日英文化交渉史の一齣―W・Gアストンについての覚書―」

一九七八年 『社会科学の方法』一一巻八号 お茶の水書房

Kinoshita Naoe : Pacifism and Religious Withdrawal, Pacifism in Japan, Minerva Press, 1978

The Miyusha and Victorian Liberalism, The Doshisha Hogaku, 157, 1979

「大正デモクラシーと同志社―海老名弾正における『民本主義』と教育理念を中心に―」(同志社編『同志社百年史(通史編1)』)

一九七九年

「日本の政治思想」(田畑忍編『政治学序説』)

一九八〇年 法律文化社

「中島重におけるラスキ政治理論の受容」(『キリスト教社会問題研究』三〇号記念特集号)

一九八二年 同志社大学人文科学研究所

「『大阪公論』と竹越三又」(田中浩編『近代日本におけるジャーナリズムの政治的機能』)

一九八二年 お茶の水書房

「議会制民主主義の危機とファシズム」(田畑忍編『危機に立つ日本国憲法』)

一九八二年 昭和堂

「『平民主義』から『自由帝国主義』へ——竹越三又の政治思想——」（『年報政治学』近代日本の国家像）

一九八三年 岩波書店

「竹越三又」・「三宅雪嶺」・「帝国主義・社会問題とジャーナリズム」（田中浩『近代日本のジャーナリスト』）

一九八七年 お茶の水書房

「新島襄と徳富蘇峰——大学設立運動を中心に——」

一九九〇年 『同志社時報』八八号

「立憲国家像をめぐる抗争——明治政府と民権派——」（田中浩編『現代世界と国民国家の将来』）

一九九〇年 お茶の水書房

「新島襄の私学論と国際主義——国際化の中の日本文化を考える——」

一九九〇年 『私学公論』二三卷二号

「近代日本における『士魂商才』論——竹越三又『磯野計君伝』を中心に——」（『近代日本研究』八卷）

一九九二年 慶応義塾福澤研究センター

「『新日本史』（第二部 評論・史論）」（平林一・山田博光編『民友社文学・作品論集成』）

一九九二年 三一書房

「大学の『公共性』について——大学改革と私学の個性——」

一九九三年 『私学公論』第二六卷一号

「新島襄と福沢諭吉——『自治自立』と『独立自尊』のあいだ——」（同志社編『新島襄——近代日本の先覚者』）

一九九三年 晃洋書房

「新島襄の『二つの顔』——明治思想史上の位置づけをめぐる——」（新島襄生誕一五〇年記念特集号）

一九九三年 『同志社時報』九五号

「平和外交の犬養毅」(田畑忍編『近現代日本の平和思想』) 一九九三年 ミネルヴァ書房

「竹越三又と天皇制認識」(富坂キリスト教センター編『近代天皇制の形成とキリスト教』) 一九九六年 新教出版社

「新渡戸稲造の植民地政策論」(西田勝退任・退職記念文集編集委員会編『文学・社会へ地球へ』) 一九九六年 三一書房

「家永豊吉—もう一つの『太平洋の架け橋』—」 一九九六年 『同志社時報』一〇二号

「ヴァイツェッカーの戦争責任論」(田畑忍編『近現代世界の平和思想』) 一九九六年 ミネルヴァ書房

「竹越三又と福沢諭吉—順逆のドラマ—」(『福澤諭吉年鑑』二二五)

一九九八年 福澤諭吉協会

「従天皇制的変遷看日本政治連貫性与非連貫性」(『中日関係史研究』)

一九九八年 中国中日関係史学会

「丸山真男—近代思想史における『異郷』としての日本—」 一九九九年 『日本思想史学』第三二号 ぺりかん社

「横井時雄の立憲政治論—The Contemporary Review (September 1898) 掲載論文を中心に—」

二〇〇〇年 『同志社法学』第二七二号

「近代日本における天皇観の相克—美濃部・上杉の天皇機関説論争を手がかりに—」

二〇〇二年 『出会い』第五三三号 NCC宗教研究所

「浮田和民と新島襄—新島イメージ・初期同志社論を中心に—」(伊藤弥彦編『新島襄全集を読む』)

二〇〇二年 晃洋書房

「精神史的に見た徳富蘇峰と福沢諭吉―『瘠我慢の説』をめぐる―」(『徳富兄弟と近代日本』)

二〇〇三年 蘇峰会

なお本稿は「福澤諭吉年鑑」三一に「論文要約」として再録、さらに、『慶応義塾福澤研究センター通信』第一号(二〇〇四年)に、「講演」精神史的にみた福沢諭吉と徳富蘇峰―『瘠我慢の説』にみられる歴史認識を中心に―と題して掲載

「戦後の価値転換期における天皇制―京都・新教育勅語構想をめぐる動きにも触れて―」

二〇〇四年 「出会い」第五号

「二十一世紀の戦争と平和―『九・一一』テロとそのあとに続くもの―」(『安曇野の内と外』編集委員会編 『安曇野の内と外―歴史・風土・文化』)

二〇〇五年 明正社

「戦後における天皇観の変容について」

二〇〇六年 「出会い」第五七号

「靖国問題と歴史認識」

二〇〇六年 「日本学研究」(北京日本学研究中心)第一六号

「『武士道的キリスト者』新島襄―高平小五郎のアマースト演説―」

二〇〇六年 「キリスト教社会問題研究」第五五号

「明治期の知識人とピューリタン革命―民友社系歴史家とクロムウエル―」

二〇〇七年 「聖学院大学総合研究所紀要」第三八号 聖学院大学

総合研究所

書評・新刊紹介

「田畑忍教授著『児島惟謙』(吉川弘文館)」

一九六四年 「同志社法学」第八二号 同志社法学会

本稿は憲法研究所編『抵抗権』に再録

略年譜

同志社法学 五八巻四号 七九五(一三六五)

「今中寛司編『日本の近代化と維新』(べりかん社)」

一九八三年三月 『同志社時報』七四号

「昭和初期の古典籍移動史―反町茂雄『二古書肆の思い出― 修業時代』を読む」

一九八六年 『同志社法学』第一九四号

「竹内栄美子著『中野重治(書く) ことの倫理』」

一九九九年 『社会文学』第一三三号 日本社会文学会

「未完のライフワーク『山路愛山』―岡利郎氏の『山路愛山―史論家と政論家のあいだ』を読む」

一九九九年 『静岡県近代史研究会会報』第二四五号 静岡県近代

史研究会

「姜克実著『浮田和民の思想史的研究―倫理的帝国主義の形成』二〇〇五年 『日本歴史』六八六号 吉川弘文館

資料

「田畑忍教授略歴および著作目録」(共同執筆)

一九六三年 『同志社法学』第七八号

「近代化について―アメリカにおける日本研究家の概念枠組みを中心に(資料)」

一九六八年 『同志社アメリカ研究』第五号 同志社大学アメリカ

研究所

「公害と市民―居住区域でのケース・スタディ」

一九七二年 『地域闘争』三月号

「アンソニー・イーデン小論」(1)(2)

一九七七年四、七月 『永世中立』一一五―一六号 憲法研究所

「日本のファシズム」

一九七九年 『良書の友』第二〇号 日本良書友の会

「講義を考える(Ⅲ) イギリスの大学の場合 オックスフォード大学におけるカレッジライフの回想―講義・セミナー・『ハイ・テ

ブル』」

一九七九年 『同志社大学通信』第二八号

上田勝美・松下泰雄編『平和と人権への情熱―田畑忍その人と学問―』（第二部政治学 明治政治思想史研究）

一九七九年 法律文化社

「法学部史 戦時下の同志社と私―田畑忍先生に聞く（一）」（共同執筆）

一九七九年 『同志社法学』 第一五七号

「法学部史 『戦後民主主義』同志社大学の復興―田畑忍先生に聞く（二）」

一九七九年 『同志社法学』 第一六〇号

「法学部史 学問・教育・平和運動―田畑忍先生に聞く（三）」 一九八〇年 『同志社法学』 第一六二号

「同志社百年史」を語る」（座談会） 一九八〇年 『同志社時報』 第六八号

「悲新島先生逝去文」―西田幾多郎と新島襄― 一九八一年 九月 『同志社大学広報』 一四六号

「学界展望」（日本政治思想―一九七八年）（『年報政治学 政治学の基礎概念』）

一九八一年九月 岩波書店

「同 日本政治思想―一九七九年」（『年報政治学 政治学と隣接科学の間』）

一九八二年四月 岩波書店

「キャンパスの中の自己表現」（座談会） 一九八一年 『同志社大学通信』 第三六号

「読書の手びき 福沢諭吉『学問のすすめ』」 一九八一年 『良書の友』 第三九号

「先生のすすめるこの一冊」同志社大学教員推薦書リスト（『新島襄書簡集』、丸山真男『現代政治の思想と行動』、福沢諭吉『文明論之概略』、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』、ウエーバー『職業としての政治』、ラスキ『政治学入門』ほか）

一九八五年二月 同志社大学消費生活協同組合

「魯迅と近代日本の知識人」（『魯迅全集』第十五卷月報） 一九八五年八月 学習研究社

〔読書のすすめ〕 一一 大学・学問・読書

掲載紙・年月日不明

〔田辺キャンパスを語る―さまざまなお出合いのなかで〕（座談会）

一九八七年 『同志社大学通信』 第六七号

〔三宅雪嶺 思想と哲学に支えられたジャーナリスト魂〕

一九八七年一月 『文』 第六号 公文教育研究会

〔知の殿堂―ボドリアン図書館―〕

一九八八年一〇月 『びぶりおてか』 四四号 同志社大学図書館報

〔学びて厭わず―内田智雄先生の思い出―〕

一九九〇年 『同志社時報』 第八九号

〔特別寄稿 明治思想史の旅―熊本・水俣紀行（全三回）〕

一九九一年 『熊本近代史研究会 会報』 第二四七―二四九号 熊本近代史研究会

〔新時言 政治家の政治責任〕（『京都Today』）

一九九三年三月

〔「花の御所」あれこれ―歴史の重層性ということ―〕

一九九四年二月 『同志社大学通信』（One Purpose）第一〇一号

〔研究課題としての朝鮮〕（奥田東編 『私と朝鮮』）

一九九六年 明石書店

〔近世近江の学問と思想〕

一九九五年一月 『社会文学通信』 第四一号 日本社会文学会編

〔丸山真男の知的遺産〕

一九九六年一〇月 『社会文学通信』 第四三号

〔近代日本における同志社と早稲田の知の交流〕（第五回法学会講演会 内田満氏講演）

一九九六年 『同志社タイムズ』 四九七号

〔近代日本における慶応義塾・同志社・早稲田三私学の『知』の交流〕（法学部・法学会共催シンポジウム）

一九九七年一月 『同志社大学広報』 第二九七号

本稿は修正加筆のうえ『同志社タイムズ』五〇九号に転載

〔近代日本の知識人と中国―武漢大学で教えて―〕

一九九七年三月 『地球の一点から』 第九九号 特大号

〔最近の中国事情―学問・政治・文化管見〕

一九九八年 『同志社時報』 第一〇六号

アーサー・ストックウイン「集中か分権か―一九九〇年代における日本とイギリスの政治の比較―」、編集・解説(第二三回)「新島講座」
一九九九年 学校法人同志社

「田畑忍の明治政治思想研究―その方法と対象を中心に―」(憲法・政治学研究会四〇周年記念講演会)

一九九九年 「憲法研究所ニュース」第七号 憲法研究所

「戦争責任と歴史教育」
二〇〇一年 「憲法研究所ニュース」第二二号

「明治初期の撰州三田と福沢諭吉・新島襄」(『福澤諭吉書簡集』第一卷、「月報」一)

二〇〇一年 岩波書店

「キリスト教社会問題研究会と私」
二〇〇一年 「キリスト教社会問題研究」第五〇号 同志社大学人

文科学研究所

「異文化接触」としての西洋見聞」
二〇〇二年五月 『ミネルヴァ通信』ミネルヴァ書房

「読書アンケート」(丸山真男／松沢弘陽編)『福沢諭吉の哲学 他六編』岩波文庫、丸山真男「福沢諭吉の『脱亜論』とその周辺」、『福澤諭吉著作集』第三卷「学問のすゝめ」小室正紀・西川俊作編、『福澤諭吉年鑑』二一九

二〇〇二年二月 福澤諭吉協会

「紀州と近代思想―福沢諭吉とその思想に連なる人々―」
二〇〇二年九月 『社会文学通信』第六六号

二〇〇二年九月 『社会文学通信』第六六号

「推薦文 与謝野晶子と徳富蘇峰―『自由人』晶子の多彩な人物交流」(『与謝野晶子評論著作集』全二十一巻)

二〇〇三年 龍溪書舎

「伝統文化と創造的思考―秋季高野山大会を顧みて―」
二〇〇三年二月 『社会文学通信』第六七号

二〇〇四年 「憲法研究所ニュース」第一八号

「J・H・シーリー・新島襄・ピューリタニズム」(在外研究レポート)

「ナシヨナリズムと文学―日本社会文学秋季大会開催に寄せて―」

二〇〇四年 『同志社大学広報』第三六三号

二〇〇六年 『社会文学通信』第七九号

「基調講演 丸山真男と天皇制・ナシヨナリズム」

同上

「読書アンケート」(孫歌「アジアとは何を意味しているのか」、『学問のすすめ』佐藤さむ訳・坂井達朗解説、角川ソフィア文庫) 『福澤論吉年鑑』二二三

澤論吉年鑑』二二三

二〇〇六年二月 福澤論吉協会

百科辞典・事典類

『日本大百科全書』(エンサイクロペディア・ニッポニカ)、「右翼」、「国家社会主義」、「国粹主義」、「中島重」、「スマイルズ」、「吉野作造」他全九項目

一九八五年 小学館

『日本キリスト教歴史大事典』「高木庄太郎」他

一九八八年 教文館

『近代日本社会運動史人物大事典』、「徳富蘇峰」、「徳富蘆花」、「山路愛山」他

一九九七年 日外アソシエーツ

『社会文学事典』「民族・国家」、「帝国主義」、「アジア主義」、「神話」、「国学」他

二〇〇六年 冬至書房

『日本思想史辞典』「新日本史」、「竹越与三郎」(入稿・校正済み)

近刊 山川出版社

新聞掲載評論

『京都新聞』

「連載 現代のことば」(夕刊)

「若者の『政治離れ』について」(一九八三年八月八日)、「映画『東京裁判』を観る」(同年九月二七日)、「名分なき解散を憂う」(同年十一月二七日)、「社会党の『再生』を望む」(一九八四年一月九日)、「私学の個性」(同年三月二日)、「『関西復権』の問題を考える」(同年四月一八日)、「古来『日本に哲学なし』」(同年六月四日)、

「三木清の政治と学問―『東亜共同体』論を中心に」 一九八四年八月二七日(朝刊)

「朝鮮解放四〇周年記念式典に参列して」 一九八五年九月二一日(朝刊)

「大学の整備充実構想(『京都市』)」 一九八六年六月二四日

「参議院選挙と今後の政局」 一九八九年七月二四日(朝刊)

「『現実路線』の陥穽 社会党の政策転換をめくって」 一九九四年九月二三日(朝刊)

「近世近江の学問と思想」 一九九五年一一月?

『朝日新聞』

「(論壇) 新しい京都府政の出發 検討の価値ある蜷川氏の『反中央』」

「新しい民友社像をさぐる 多様なパースペクティブの中で」 一九七八年四月二八日(朝刊)

「北朝鮮の学問事情」 一九八五年一月二三日(夕刊)

「論争欠いた課題 候補者は人材難 九一年統一地方選を終えて」 同年一〇月二三日(夕刊)

「内藤湖南の史学に注目」

一九九一年四月二三日（朝刊）

二〇〇三年六月六日（夕刊）

【読売新聞】

「私の研究 民友社と竹越三叉」

一九八二年二月八日（夕刊）

「世界史的な観点を強調―ビーズリーの明治維新論―」

一九八三年一月一三日（夕刊）

【図書新聞】

「新編集『島田三郎全集』（全七巻）によせて 史論家としての島田三郎―歴史家の『陋見』を正し史筆の公平力説」

一九八九年七月一日

付記 本目録は、望月詩史修士の編集したものに、補筆修正を加えて成ったものである。特記して謝意を表したい（西田毅）。